

講義名	教養特講Ⅰ（人間社会学科へのいざない）		
科目区分	教養特講		
担当教員	権井 将夫／蜂屋 真／森藤 ちひろ／ 森藤 文子／栗田 良樹		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科／2020年度 人間社会学部 観光学科／2020年度 人間社会学部 人間社会学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
人間社会学科は、人、もの、お金などに関わるさまざまな問題を解決するために、人間社会を多角的にとらえる視点を学ぶところである。そのためには、現代社会の構造や、人々の心の動きや仕組みがどの様になっているのかについて理解を深め、人々の暮らしを豊かにする方法を模索することが重要である。これらを専門的に学ぶためには、人間と社会を理解する基礎的な知識を学ぶことが、この授業のねらいである。 この授業では、社会を理解するために、地域、まちづくり、コミュニケーション、いじめ問題、ライフコース、キャリア、家族、仕事などについて解説する。また、人間を理解するために、パーソナリティの構造、対人関係、対人魅力、群衆行動、消費者行動などに関する知識と理論を社会学・心理学・その他関連領域の観点から解説する。

到達目標

- ①社会学や心理学がどのような学問であるかが理解できる。
②現代社会の問題を社会学・心理学・その他関連領域の観点から理解することができる。

提出課題
複数の教員によって担当される科目であるため、担当教員によって提出課題の方法が異なる。各担当教員の説明をしっかりと聞き、指示に従うこと。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

各教員が授業内で講評・解説する。

評価の基準
担当教員ごとに課題・試験が行われ評価点を与える。その評価点の合計と最終回の「レポート試験」の合計が最終評価点となる。課題・試験の方法や評価の方法に関する詳細は、授業内に各教員から説明が行われる。

履修にあたっての注意・助言他

毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

履修にあたっての注意・助言他
毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

履修にあたっての注意・助言他

毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

履修にあたっての注意・助言他
毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

履修にあたっての注意・助言他

毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

履修にあたっての注意・助言他
毎回授業に参加すること、しっかりとノートを作成し、資料が配付された場合は、その都度、整理し保管すること。また毎回の授業に持ってくることを忘れないようにする。特に本科目は担当教員が5名いるため、担当教員ごとにノートや資料をしっかりと整理すること。

教科書
. 使用しない。

プリント資料及び参考文献

必要に応じて資料を配付する

プリント資料及び参考文献
必要に応じて資料を配付する

授業計画

1. 大学での学びと人間社会学科での学修内容、人間社会と社会学①（栗田）
2. 人間社会と社会学②（栗田）
3. 人間社会と社会学③（栗田）
4. 人間社会と社会学④（栗田）
5. 人間社会と企業①（権井）
6. 人間社会と企業②（権井）
7. 人間社会とマーケティング①（森藤）
8. 人間社会とマーケティング②（森藤）
9. 人間社会と経済学①（森藤）
10. 人間社会と経済学②（森藤）
11. 人間社会と心理学①（蜂屋）
12. 人間社会と心理学②（蜂屋）
13. 人間社会と心理学③（蜂屋）
14. 人間社会と心理学④（蜂屋）
15. 人間社会学科の学びのまとめ（レポート試験）

授業計画
1. 大学での学びと人間社会学科での学修内容、人間社会と社会学①（栗田）
2. 人間社会と社会学②（栗田）
3. 人間社会と社会学③（栗田）
4. 人間社会と社会学④（栗田）
5. 人間社会と企業①（権井）
6. 人間社会と企業②（権井）
7. 人間社会とマーケティング①（森藤）
8. 人間社会とマーケティング②（森藤）
9. 人間社会と経済学①（森藤）
10. 人間社会と経済学②（森藤）
11. 人間社会と心理学①（蜂屋）
12. 人間社会と心理学②（蜂屋）
13. 人間社会と心理学③（蜂屋）
14. 人間社会と心理学④（蜂屋）
15. 人間社会学科の学びのまとめ（レポート試験）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。
標準的な学修時間は1コマ（90分）の授業に対して、予習2時間、復習2時間が必要とされている。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

本科目は複数の教員が担当するため毎回トピックが異なる。そのため授業の行われた日に復習をしっかりと行い、知識として習得することが望ましい。復習の際は、ノートや配付された資料の書き込みを基に、十分に理解できたか確認すること。理解が不十分なところについては、関連書籍で調べたり、担当教員に積極的に質問すること。また、興味を持ったトピックに関しては、書籍で調べるなどしてさらに知識を深めること。